

資料紹介 『阿波希ん奴』

『阿波希ん奴』（あわけんど）は、明治三十四年ころ以降に、島田泉山氏によつて書き進められたと見られる阿波方言集の草稿である。現在、徳島大学附属図書館に「泉山文庫」の一冊として所蔵されている。

島田泉山氏は、一八七四（明治七）年、阿南市長生町本庄の地主の家に長男として生まれた。名は麻寿吉。泉山は号である。高等小学校卒業後、儒学を天羽生信成に学び、一八九七（明治三十）年に上京、二松学舎に二年間学んだ。帰郷後は事業のかたわら、一九一六（大正五）年ごろから郷土史研究に打ち込み、『八棒神社と長国造』等の著書を残している。泉山氏の没後、蔵書三千冊が徳島大学に移管され、「泉山文庫」として所蔵されている。

参考：藤井浩（『徳島県百科事典』（徳島新聞社刊）昭和五十六年刊。）

『阿波希ん奴』は、おおよそ縦二四センチ、横一七センチ、一五八枚の和紙を綴じたもので、本文は片面縦二〇センチ、一二行の罫線を引いた用紙を縦にほぼ三等分し、上三分の一に見出しをつけ、残り三分の二に説明を記述している。

仙波光明

本文は基本的に墨書であるが、随時記入されたものと見えて、墨の濃淡、文字の大きさ等はまちまちである。また、一部は朱で記入され、ペン書きの部分も見られる。また、いくつかの節の終わりには、鉛筆書きの項目が見られる。見出し語、用例などには平仮名を用い、説明の文章には漢字カタカナ交じりで書いている。ただし、鉛筆書きの三八項目は、すべて漢字平仮名交じりで書かれている。

見出し項目は、鉛筆書きのものも含めて、七八二であるが、重複する項目もある。説明文中に示された方言項目をあわせれば、おおよそ八四〇語あまりになるであろうが、より正確には研究編にゆずって、ここでは概数を指摘するにとどめる。

なお、『阿波希ん奴』の資料的価値の概略は、すでに森重幸が指摘していることを付言しておく。（朝日新聞

・徳島版 一九九一年六月二十五日）

『阿波希人奴』翻刻凡例

『阿波希ん奴』の翻刻にあたっては、できるだけ原本の姿を残せるように配慮し、以下の方針で臨んだ。

ア 見出しと説明のあいだは、Ⅱで区別する。これは紙数節約のためである。

イ 解説が困難なところは、□で示す。

抹消された部分でもとの文字が読めない部分は、

工 抹消された部分でもとの文字が読める部分は、抹消線を付ける。例「下痢~~ノ~~ノ~~シ~~」

才 見出し、および説明文に付けられた振り仮名様の文字は、「一」に入れて示す。

力 見出し、および説明文中に補入されたと認められる部分は、「一」に入れて示す。

キ 割り注状の部分は《 》に入れて示す。

ク 漢字は、原則として新字体を用いる。

ケ
く
の
字
点
は、
／＼
で
示
す。

コ 改行は、／で示す。

サ 各丁の終わりは、『』で示す。

シ 原文には、句読点は施されていないが、読解の便宜のため句読点を補う。

ス 丁付け、および新たに付した注は、△、▽に入れて示す。

セ 鉛筆書きの語については、項目の上に＊印を付け

て示す。

ソ 朱書、ペン書きの部分については、その旨を各項
目の終わりに、△ ∇に入れて示す。

あうんていかへ

おはれ

あつた水石

あらうぽい

あせる

あひせろ

あはけ

多かむり

あはれ

あふけり

矢張り月し
間髪ヲ入レズナリトテ是——ト云
あ

クルウト之フミ同に又舉行。其

本物、綿子入し通々々々——

葉くさいと云ふ同レ極ナ見聞

沈黙するに似せ、急ぐ、急ぐ

水場下、他、物、打、か、え、ん、す、え、う

あわぬけ
ト
エフ、
ハ

赤生既、字音ミレサ、赤ト漢文

あはやく 上男、同じ、まばく思ふ

あらがふふて油に揚ぐゝる

△ 年形子久者十五ヨリ 類推す

阿波希ん奴

△表紙▽

あ い う え お
か き く け こ
さ し す せ そ
た ち つ て と
な に ぬ ね の
は ひ ふ へ ほ
ま み む め も
や ゆ む め も
ら り る れ ろ
わ

△1表▽

〔白紙〕

△1裏▽

例言

- 一 本書ハ阿波国ノ方言ヲ集輯スルヲ以テ目的トス。
- 一 阿波一國ニ於テモ、南北自ラ其方言ヲ殊ニスルモノアリ。由テノ南方殊ニ那賀郡ノモノヨリ始メ漸次他地方ノモノニ及ブ。
- 一 昔ニ在テハ雅言ナリシ者モ、当時ノ用語ニアラサル者ハ、惣テノ方言ト見ナシテ之レヲ掲グ。

- 一 記載ノ法方ハ、方言ノ頭音ヲ以テ五十音ニ配当シテ記ス。ノ但シ五十音中発音ノ相齊シキモノハ、前行中ニ納メテ後行ノモノハ廃ス。
- 一 方言ノミ掲ケテ意味ノ明カナラザルモノハ、前後ニ文字ヲ加ヘテ記載ス。サレド五十音ニ配当スル時ハ依然方言ノ頭字ノニヨル。

△2表▽

明治三十四年四月三十日泉山書屋ニ於テノ

編者しるすノ

例言補遺

- 一 上下一般ニ通シテ行ハル方言アリ。或ハ或ハハ「或ハ」ミセケチ▽下等小人ニノミ行ハルノモノアリ。然レトモ今悉ク表別セズ。
- 一 那賀郡言語ノ三大別。山分語、里分語、浦部語。山分語、動詞ノ下ノニケノ縮約ノカ。行きよる等ト云フ。里分語 デ 或ハ カト云フ。ノデ・ヤ・敬語ノ意□か□也。浦部語 サ ト云フ。
- △2裏 「那賀郡」以下ペン書き。滲み多し。▽

通音（母音変化）

エ符列則チ エケセテネヘメヘレエノ一列ノ音ノ下ニイ韻ノ付クトキハ惣テ イ韻□変エ韻トナル。ノ又各行ニハ おしへる おせる 長「」ケヲたきノ間にあはぬヲまねあはぬノあつくるしヲあつくるしノ

小児語ハ、主トシテ或言語ノ頭字ヲノミ□□ハ繰り？
V返スモノナリ。例□タビヲ／タンタ テヲテンテ
ソヲリヲゾンゾト云フガ如シ。此等ヲ研究スルレハ／
面白キ結果ヲ得ベシ。／
佛ヲホトキ。

△3表V

【白紙】

△3裏V

通韻（子音変化）

せりあひヲせりやい。早あいヲ早やい。あハ大抵やニ
変ス。／手あらひハ約マリテたらひトナリ、ヤガテ足
ヲあらふ者物ノ■専称トナ／リシヨリ、語源ヲ忘レテ、
手ヲアラウ物ニハ手たらひト云フ様ニナレリ。／の、
豆爾波ハルハ多クント訛ス。水の中ヲ水ん中、山
の中／山ん中トナルガ如シ。又名詞ノ語尾ノのハント
変ルコト間々アリ。／き「り」もの■ヲき「り」もん
トナルガ如シ。ねいる（寝入）ヲねーる。

△4表V

□□□□ニハ、転呼音「正シク云へハ連声」ヲ原音
通り発音スルモノアリ。さうし（草紙）／ヲサーシ、
上の方「ハ」ヲ上のハ、かふて来てくる、（買）か
てくる。もら／ふて来た「（黄）」、もらて来た。

△4裏V

あそんぼこニ手ヲ遊ビモノヲ云フナリ。
あんねニ姉ヲ云フ。

あんにやニ兄ヲ云フ。

あけあしとるニ言論ナドシテ、人ノ語失ヲトラヘテ、

彼はレト論スルヲ云。

あまへるニ小児ノ稍長シタルモノガ、其乳児タリシ時

ノ言語ノヲ用キ、或ハソノふるまいヲナスヲ云フ。

あッちやこッちやニ反対ニナルコトヲ云フ。

あべこべニ同上。

あわてるニ狼狽ノ義ナリ。

あてこすりニ不明ナルコトヲ、夫レト當テ、確ナル

ガ如クニ云フ也。

あたりまへニ當然ノ義ナリ。

あほうニ馬鹿白痴ナド云フニ同シ。』

△5表V

あつぱりニ矢張ニ同シ。

あうんのさかへニ間髪ヲ入レズナト云フコトアリ。是

ートハ其ノ間□字ナリ。即チ、俗ニ一かばちカ

ト云フト同シ。／此ノ語真言宗ノ法語ヨリ来ル。

あばれるニクルウト云フニ同シ。又暴行ノ意。

あつこぼれるニ衣物ニ綿ナド入レ過キタルヲート云

フ。

あッこいあそこト云フニ同シ。彼所ナリ。

あらッばいニ荒／＼しいト云フニ同シ。極メタル卑語

ナリ。／此ノ「ほい」ト云フ語ハ東京語ニハ多ク聞ク／語デアルガ、我地方ニテハ、此ノ荒つほいと云フヨリ外ニハ余り聞ねハナリ。

あせるハ汲汲ト云フニ同シ。急クノ意ナリ。』

△5裏V

あびせるハ水湯ナドヲ、他ノ物ニ打カケルヲ云フ。

あぬけハあわぬけト云フニ同シ。

あかむりハ赤無理ノ字音ナラン。サテ、赤トハ漢文ニ

赤心／赤地ナド云ヘル赤ノ字義ナラン。意ハ無理

ヲ一ノ名詞ト化シ来テ、道理ナキ無理ト云フ意ニ

用／キラレタルナリ。

あばあばハあはや／ト謂フニ同シ。あばあば思ふ。

／小児ノ井戸側ニ立ルヲ見テ、あばあば思フ。／

乗ツタ舟ガ転覆スカト思ツテ、あばあばスル。

あぶらげなりハあぶらげハとうふヲ油ニテ揚ケ物ニシ

タルモノ／ニテ、其形状三角形ノ二角ノ稍々長フ

シテ、ノ如キ形ヲシタル者ナルヨリ類推

□□』

△6表V

起ル側比喩ナリ。蓋シ当今其形状ノ方形ノ者多ケ

レドモ矢張ア上げなりト云ヘバ三角形ノ稍長キモノ

ヲ意味スル也。

あじうハ宜シク、立派ナド云フニ同ジ。

あたるハ不消化物ヲ食シテ下痢ヲ患フシ、或ハ腹痛ノ

スルヲあたるト云フ。中■毒。

あいよかきヨハ双方持ち合ヒト云フニ同シ。

あつちやこつちやハ反対ト云フニ同シ。

あじ、めるハ味占ムルノ意ナリ。美味ヲ知ルヲ云フ。

あんだいなハ氣遣シト云フニ同シ。

あいやハアシ。小児語。

あんといハありがとノ意。小児語ナリ。』

△6裏V

極幼少ノ際ハ単ニあんト教ヘ、／次テあんとい、

次テあんがと、／遂ニありかたうトナル。

あがるハ能ノナクナルヲ云フ。役があがる。(将■)

飛車があがる。／魚があがる。(是レハ死ヲ云フ。

太平記二十七卷二丁ニ／田楽の将■倒シ我敵ニハ

王許コソあがらざりけり。△この項、朱書V

あとさしハ足ト足トハち合セテ寝ユルヲ云フ。

あとさすハ物ノ数ノ、事ニ過グルヲ云フ。

あいこハわきがノコトナリ。

あね ヨリあねハ二変シ、又んね又ハ二変ズ。ねい

ねーはんナド。△この項、黒インク、ペン書きV』

△7表V

*あつち、あつちやハ向ふニ同シ。

*あるでないかハ在るの意で強く云ふ場合に用ふ。』

△7裏V

【白紙】

△8表 「あ」に予定V

* あこうゝあなた、お前と同意義。魚^{イサナ}村に多し。

* あさつてゝ明後日の事。』

△8裏V

いつこんゝ一ツノ意。

いがるゝ呼ブ、サケブト同シ。

い^イち草系^イ第一、或ハ一番ナド云フニ同シ。

いぐちぐゝ出テタリ入タリシテタルヲ云フナリ。整ハ

ヌコト也。

いぐいゝ芋ノ茎ノ汁ヲナメテ感スル味ヲ一ト云フ。

いたがるゝいたき風スルヲ云フ。

いでるゝ湯ニテ煮ルヲ云フ。

いでるゝぬるゝト云フニ同シ。湿フ意ナリ。

いがむしゝ小兒ナドノ無理ヲ云フヲ一ト云フ。

いんぐゝわんたれゝ因果ノ悪シキヲ云フ。

いんぐゝわんゝ同上。

いとはんゝ令嬢ヲ云フナリ。但シ次女以下ニ用ナル。』

△9表V

栄花物語はつ花ノ巻ニ、いと姫君二つ三つはか／

り云云ト見えタリ。此レト同シキカ。

いッしにゝ毎々ト云ハンカ如シ。

いやしいゝ食ニ貪ルヲ云フ。

いやしゝ前条ヲ体言ニ云フ。貪食者ヲ云フナリ。

いッしよゝ同シト云フニ同シ。

いきつくゝ中途ニテ断ヘル意ナリ。又余力ナキ様ニナ

リタル意。／旅行シテいきつくト云ヘバ、歩行困

難ニシテ歩ミ難キヲ／云ヒ、労働シテいきつくト

云フ^イバ、衰弱シタルヲ^イバ^イテ／労働シ難クナ

リタルヲ云フ也。

いろろ^イゝ弄スル事ナリ。人ヲいろろ。人ニいろは

る。』

いくゝ出来ルト云フ意ナラン。騒動ガイタ。』

△9裏V

山くずれがいた。

いなぶらゝはらニ限ラズ、草 柴等ヲ高く積ミ重ネ／

タルモノヲ云フ。

いぐいゝ芋ノ茎ヲナメテ口スル味ヲ一ト云フ。《エ

グシノ釈 東雅二四七》△《内朱書V

いがゝ栗ノいが。麦ノいが。

いつけゝ親類ト云フニ同シ。

いまだにゝ今だにナリ。古語ノ遺レルモノカ。蓋シ連

続シテ謂ヒ、且ツだノ弱ケレバ俗語ノ如ク聞ユル

ナランカ。

いくしゝ田ノ中ナドニ土ヲ盛リテ、はかノ跡ノ如キモ

ノヲ一ト云。

いやゝ接続語。彌ノ古言ノ残レルナリ。いやか上。

いやつき。

いろま叩いて』

△10表V

いきつむ身体ノ延ビズシテ、肩ハ腰V張り、角張りタルヲ云フ。蓋し意氣詰むノ意ニシテ、意ノ氣ヲ詰メタルトキノ状態ニ似タルヨリ云ヘルナル可し。

いきづむ意氣詰むノ意ニシテ、進退究マルノ際ノ氣息■ヲ詰ムルノ状態ヲ云フ。／

○いきつむ いきづむ 語源ヲ同フシ、／而シテ後、つノ清濁■濁ニ由テ意義ヲ異ニスルニ至ルハ、尤モ研究ニ値ス。

いつこも 又いつこんも一ツモト云フニ同シ。此方言多ク使用セラル。』

△10裏V

* いんでくる 帰へると同じ意。

* いつきよる 行きつつある事。

* いかんか。 いかんで。 行きませうと同じ意。』

△11表V

【白紙】

△11裏・12表 「い」に予定V

うち我ト云フニ同シ。

うり 折ト云フニ同シ。 其うり、往ツタうりナド。

あゆしがつく 行續ノ発見セラルルヲ云フ。蓋シ専ラ

／盗難ナドニ云フ者ノ如シ。

うなづく 頭ヲ前ニチヨット傾ケ、即チ承諾ノ意ヲ表

／スコトヲ一ト云フ。

うせ コイト云フ卑言。

んもオウ 牛。小兒語。

うまい事 善いト云フニ同シ。

うそのかわ いうそト云フ意ナリ。うそのかわのかわ■也。／□□□□ナドノ語アリ。

うれる 熱スルト云フニ同ジ。

△12裏V

うつかり 茫然ト云フニ同シ。』

△13表 以上「う」V

【白紙】

△13裏・15裏 「う」に予定V

江一 いらエル言葉。

ゑらい 賢ノ義ナリ。

ゑくそいき 乱暴■ナドノ義。

ゑくそいき 非常、多くナドノ義。

エ 此ノ語、疑問又ハ詠嘆ノかノ下ニ付ク時ハ、ヤ、

敬語ヲナスモノ、如シ。行たかエ、見たかエ、

ナド、単ニかト／云フヨリハ丁寧ニ聞ユ。蓋シ極

メテ親密ノ関係ニノミ用セラル。親シカラサル

モノ又ハ長上ニ対シテハ、別ノ敬ノ語アリ。

江ー江ート長音ニ云フトキハ、人ヨリ呼ヨリ命メ令レセ
ラレタルトキ、イラヘル語トナル。又、ノ早早く行
「エ」デコイヨ。こえー。江、コノえ、ノ音調ハ
前ノえノ、ノ下ノえヲ、ヤ、長音ニセズシテ、
クリ返スカ如ク云フナリ。サテ之」

△16表V

レハ人ヨリ呼ビ掛ケラレタルトキ、イラヘル語ナ
リ。又談話中ニノ之レヲ挿ムトキハ、反問ノ語ト
ナル。又ええート云ハ、口ケノタルトキハ、否
定スルトキノ語ナリ。又えート長ク「／＼」
ヲ引クトキハ、歎息又ハ驚ガクノ語トナル。／
おー おお おお おー／
んー んう んんう んー／／モ此レト同シ
様ナリ。」

△16裏V

【白紙】

△17表V 19表 「え」に予定V

おんぼろぼろ 乱髪ノ形容詞。

おんぼろ。おんぼろぼろづ 上ニ同シ。

おら 我ト云フニ同シ。

をのれ。をのし。 皆汝ト云フニ同シ。極メ

テ卑メテ云フ也。

おい 呼ビカケテ云フ言葉。

おんびき 蛙ヲ云フ。

をー いらヘル言葉。又、ヤア。

おわへる 逐フト云フニ同シ。

おッさん 年若キモノヨリ、男ノ年長者ヲ指シテー

ト云フ。

おばはん 女ノ年若キ者ヲ指シ長者ヲ指シテート云フ。

おはち 飯櫃ヲ云フ。

おまい すこく 諂言スルヲ云フ。」

△19裏V

おゐでるか 在宅カノ意ナリ。

おゐでなさりますか 或ハ他行、外出ナドノ意ニモ用

ナル。

おやくにん 巡査ニノミート云フ

おねば 緩言スルヲート云フ。

おこる 怒ルヲ云フ。

おもしよい 面白キノ意ナリ。

おもいき 思ヒ存分ノ意。

おとなしい 静ナ、落チツイタナドト同ジ。

おんでん がやし 正反対ニナド云フニ同シ。敵打ト云

フニ通フ。

おぶける 驚クノ意ナリ。又おびけるトモ云。

おとい 恐シイノ意ナリ。専ラ小兒ニノミ用ナル。

おめ「足」 御ノ字ノ義ナリ。」

△20表V

おごッおー御御馳走ノ転。

おげる他人ノモノヲアサムキトリ、又ハ強テ取ルヲ云。

おげ前条ノ名詞法ナリ。

おちぶれる零落スルコトナリ。

おきる起きるナリ。立つトハ異ナリ。横ニ起きる、あわぬけに起き、腹はへに起きるノナドノ如シ。

おんばう随一ト云フ語ニ似タリ。魚釣ノート云へバ魚釣ノ先生。或、随一ナド云フガ如シ。

おふく鼠ノ別名。

おたいこ人ト共ニ飲食遊浪シテ其消』

△20裏V

費ヲ他ノ者ニナ■サシムルヲノート云フ。

をせ小兒ニ対シテ大人ヲ云フ。

おもいのねん思ひの念ニテ重語ナリ。思ひの念がと

ゞいたナド。

おんぶく神仏ニ費スル米ナリ。

お、がす起シ取ルヲ云フ。

おいで来ノト云フニ同シ。

おとましい劣る、見下ケルナドノ意ナリ。

おとろしおそろしノ意転。

おちよばい

おうじよう往生ノ義ヨリ転シテ、難苦ノ意ニ云フ。』

△21表V

おへつやうついいしやうト同シ。おへつこくトハつ

いしよ／う云ふを云。

おとましい劣等ノ意ナリ。

お、けいおほきート云フニ同シ。

おけい同前。

おこる怒ルヨリ転来シテ、叱ルノ義トナレリ。但シ此ノ場合ニハ、自ノ動詞ハ他動詞ニ変セリ。

をく接尾語。口語ニハとくと云フ。動詞ヲ受ケテ、

詞ヲ作ヲ確ノムルノ意アリ。捨てをく、見てをく。

口語ニハ捨てとく、見とくと云フ。置てをくナドノ二重ニ置くノ音ヲクスカヘスコト、尚見て

み／るト好一對。』

△21裏V

おもしよい面白イト云フニ意同シ。

おんびき蛙ヲ云フ。祖谷ニテハ雨蛙をぎやしびきト

云フトゾ。

*おこもじ葉のつけたの□□。つけなと同シ。

*おかちんお菓子と同シ。

*おまはんあなたと同シ。

*おくとかま場の事。

*おきんかい起きなさいの事。起きませう。』

△22表V

【白紙】

△22裏「お」に予定V

がいなニ猛しト云フニ同シ。

がいに引クニ強ク引クノ意ナリ。

かあらニ河原ヲ云フナリ。

かんまんニ構ハヌト云フニ同シ。

かしこいニ大人ニ云フトキハ小才子、權謀家ノ意トナリ、小兒ニ云フノトキハ賢ノ義トナル。

かくれんぼニ一種ノ兒戲ナリ。數人相ヨリ、一人目ヲ

フサギ、而シテ他ノモノハ思ヒ／＼ニ隠レタル

ナリ。カクテ其目ヲフサグ／モノ、隠レタルモノ

ヲサガシ出スナリ。其目ヲフサグノ役ヲスルモノ

ノヲ「目する」ト云フ。

かやるニ強ク言ヒ、或ハ仰山ニ云フトキニ用ナル。月

ガ澄シカヘる。

かへるニ水が濁リやゝやる、をとりかやるナド多し。

△23表V

「たとへ」がしニ語ヲ強メテ云フトキニ用ナル。

かゝりあうニ男女私ニ相通スルヲ云フ。

かつ／＼「に世渡ル」ニ自由ニ渡世スルヲ云フ。

かるみニ葬簾ヲカク役ヲ一ト云フ。

がたらニ方等ト云フニ同シク、人名ノ下ニ付シテ敬語

トス。多ノ數ヲ云フニアラズ。

がたニ同上。

かあかニ小兒ノ烏ヲ稱スル語。

かきニござ、と、うすゝみ、はつきり／かいさん、ナ

ドノ名アリ。其名クル所以ヲ知ラズ。

かけニ出来タラかけじや、読メタラかけじや、

△23裏V

ナド用ナル語ニテ、其意ハ、出来ルナラバ賭デモ

／セウ、決シテ出来マイト云フニシテ、今ハ賭ノ

意失／セテ、反語ノ如ク用ナル。ことト云フ語

トノ用法同シ。

かたわニ凡テ普通ナラサルモノヲ云フ。

かゝはいニあら尤ナリト云フニ同ジ。

かたずるニ片一方ノ重を云フ。

からニ空虚ト同シ。腹がからになる。此箱ハからで

す。

からニかゝり合ヒト云フニ同シ。人ノ物ヲ勝手ニ用ナル

ヨ／ツテ、破損デモシタラからになる。

かたんニ「に」ならぬニ他ニ比シテ惡口キヲ云フ。

△24表V

かじけるニ手足ナドノ冷却シテ感ヲ失フヲ云フ。

からけるニかきあけると云ニ同シ。尻からける。幕か

らげる。

かなはんニ堪ヘラレヌト云フ意。寒ウテかなわん。荷

ガ重ウテ／かなはん。 勝 協ハズ、敵セスナド

云フコト勿論ナリ。

かアかアニカラス。小兒語。

かんかニ門。小兒語。

かつたいぶくろ

かわさつ紙幣ノコトナリ。

かわ接尾語。何ノ意味タルヲ知ラズ。寝坊かわ、う

とか／わ、ひやかわ、た、かわ、ナド。「是語」

也有ガ藏人伝ニモ、／世には「な」まかはノ藏人

ともよふト見エタリ。

がねにラ云フ。蟹。

△24裏▽

かつたしに片端ヨリト云フニ同シ。

*かち徒歩で行く事と同シ。

*かつぐ水中に入る事。

*かつたいいいやらしいと同シ。□村に多し。

*かんか下駄。幼語。

△25表▽

【白紙】

△25裏△26表「か」に予定▽

きつい厳シイト同シ。

きしんだいヲソキヲ云フ。

きしような勇氣アルヲ云フナリ。

きせり煙管ヲ云フナリ。

きよとをう突然ト云フニ同シ。

きたない吝嗇ヲ云フ。

きたない不潔ヲ云フ。

きこん氣隨ニ、意ノマ、にナドノ意ナリ。

きほひ勢イ、次手、ナトト同シ。競ノ転ナラン。此

ノきほ／ひに事をするナド。

きりものきりもん、着りきもの、きもん、べ、／ナ

ド並用ス。着物。乃ち衣服ヲ云フ。きりノ」

△26裏▽

り文字甚ダ合点行カズ。

きれゐ事ニ臨ミテ財ヲ吝マザルヲ云フ。

きてんきかす

きちんと確然ノ意。

きやすい氣心兼ナシト云フ意□。

きやすい容易ノ義。

きかんユルサズト云フニ同シ。又きヲ略シテかんト

モ云フ様ニ／キコユ。△この項、朱書▽

けふ今日ナリ。サテ、今日ヲ中心トシテ既往「未来

ノ」ノ「日」時ヲ云フニハ／あした「あす」、あ

さつて、しやさつて、五やさつて。以下ハ／云フ

コト稀ナリ。「あした」あさつてハ単ニ云ヘトモ、

以下ハ数ヲクルトキニ／ノミ云フ。」

△27表▽

⊥既往ノ月⊥未来ノ時ヲ云フ⊥「月及年」未来

ヲ云ニハ、らいけつ「年」、さら／いけつ「年」。

既往ノ日ヲ云フニハ、きのを、をとつい、さき／

をとつい。

月。あとのつき。「年二ハ」きよねん。

又過去若クハ未来□ニ付テ、或事実ノ起ル日ヲ中
ノ心トシテ過去ヲ云フニハ、
よいの日（月）（是ハ稀ナリ）。よいの年。また
よいの／年。未来ノ云フニハ、
あくりひ（又あくる日ト正シク云フ人モアレト
モ、其ハ教育ノ結果ナリ。）
あくる月。是レハ前ト反対ニテ、あくり月ト云フ
ノモノハ少シ。』

△27裏▽

あくり年。

きく「又き、」ニ足ラスト云フニ同シキナラン。彼学
校ノ生徒ハ百人で「きくかへな」き、ますか。

きかんニ■上ノ反ニテ過クルヲ云フ。

きよとー唐突ノ意ナリ。

きほひニ勢ト云フニ同シ。』

△28表▽

【白紙】

△28裏△29裏「き」に予定▽

くわしやげるニ撃ツタ、グト同シ。

くちや／＼ゆうニ多言スルヲ云フ。

くわじニ出火ヲ云フ。

くわるニ堅「コワク」ナルノ義ナリ。

くるりニ樞ヲ云フ。

くそべいニ重イト云フニ同シ。

くろと「又くろウ「オ」と」ニ物ノ上手ナル「者」ヲ云
フ。

くろいニ前条ニ同シク、上手ナルヲ云フ。

くたいニ形容ノ接尾語ナリ。薄くたい紙。わるく／た
い奥。

くさいニ同上。「動詞ニモ付く」馬鹿くさい人。水く
さい塩梅。／肴くさい息。』

△30表▽

ぐとづくニ何トナク忿情ヲ口ニモラスヲ云フ。

ぐと／＼ゆふニ同上。

ぐずいニ遅鈍ヲ云フ。

ぐず／＼ゆふニ累の解セサルヲ云フ。小言ヲ
云フ。

ぬぐわいちよニ具合ト云フニ同シ。

くろしニくるしノ転ナル可シ。あつくろし。其他ニハ
見／当ラズ。いやくろしナドアレド最モ卑ナリ。

くニ内ト云フ意義アリ。■某さんく、某サンノ内ノ意
ノナリ。又わんく、われノ内「を」のれ又自分ノ内

ノ義ニテ、談話者ガ対者ノ其者ヲ云フニアラズ。ノ内ヲ
云フ「ニ」テ、話者自カラヲ云フニアラズ。ノ又

しとんくハ談話者自己ノ内ヲ云フナリ。ノ又、わ
のものト云フハ談者ノ対者ニ対シテ対者ヲノ

△30裏▽

われスルナリ。人のものハ談者自己ニ人口ル也。
*くれるでーくれれますか、下さいますかと同シ。
*ぐちなはーへびの事。』

△31表V

【白紙】

△31裏△33表 「く」に予定V

げんこつ^ニ中指ノ第二骨節ニテ物ヲ打ツヲ、けんこつ
ヲ入レルト云フ。

けんど^ニけれともト云フニ同シ。

けたいのわるい^ニ気色ノ悪シキヲ云フ。

けん^ニガ故ニノ意ナリ。寒「^ニ」けん、アツイけんナド
同シ。

けに^ニ同上。

けゑ^ニ芸ヲけゑト長音ス。惣テイ列ヨリ、エ列ニ転シ

テ発ノ音スルモノ多シ。慶ヲけゑ、栄ヲゑ、ナド。

けッ^ニ能ノ義ナリ。けッ^ニこ往ク、けッ^ニこするナド。

けッ^ニかる^ニ居ルト云フノ卑メ罵ルトキニ用ヅラ^ニ語
ナリ。

げたはく^ニ上カサヲハネルト云フニ同シ。例ヘバ組合

ナドニ^ニテ物ヲ売ルニ、十円ノ物品ヲ売リタ

ルニ、九円ニ^ニ買^ニタリトテ、其一円ヲ自分ノ

物トスルガ如キ』

△33裏V

ヲ云フ。

げしに^ニ様子ニ、或ハやうにト云フ意力。知ったげし

に、ノ言やゑ、げしに。又考フルニ、げハ氣ニテ

氣ノ色ノ意、而シテ、シハ例ノ強メ言葉ニモアノ

ランカ。尚考フ可シ。

げんとが^ニわるい^ニ面た、しき意。乃チ外聞ノ悪しき

ノヲ云フ。

けたくそのわるい^ニ腹の立つた時ニ云フ言葉。又、む

わくそがわるいトモ云。

けたいがわるい^ニ（同上）心ニ善ラサルヲ云フナリ。

けし^ニ一定ト云フ程ノ意。ーあいたいナド。』

△34表V

【白紙】

△34裏△36裏 「け」に予定V

こち^ニ呼懸ケテ云フ言辭。

こつ^ニ事ト云フニ同シ。寒イこつしや、悪イこつしや

ナド。

こんにちわ^ニ今日ワナリ。日常人相合ヘハ、互ニ今日

ワト謂ツテ辭ノ義^ニヲスルナリ。又人家ニ入ルニ

モー^ニト称シテ入ル。

「こ」ふむ^ニ成人ハ、子うむト発音スレトモ、此ノ語

ふむト聞ユルニヤ。ノ小兒ハ悉クふむト発音ス。

寒ウ「こわす」^ニ御ザイマスノ意ナリ。

— 36 —

さかなニ魚ノ惣名。

さいこづちニ細工槌ノ転カ。

さのぼりニ田を植終ルヲ云フ。後或雜誌応問録欄ニ、

／俗間に田植後さなぶりの祝ト云フコトアリ、如

何ナル／意カトノ問ニ答ヘテ、本居翁古事記伝狭

蠅ノ下、／及高内真足ノ十二月和名考五月ノ下等

ニ、佐ト／云フ事ハ總テ田植ル業ヲサシテイヘル

「言」ニテ、植始／ムルヲ佐開「サビラキ」トイヒ、

植終ルヲ佐登「サノボリ」ト云フト見エ／タリ、ト見

タリ。而シテ、さなぶりハ佐登ノ転訛ナラン／ト

云ヘリ。

さいけニ苗ヲ植エ初ムルヲ一ト云フ。

さでるニ一所ニ取り寄スルコトニ一ト云フ。』

ハ40裏V

ざつたニずあつたノ約リニテ、往かざつた、来ざつた

／ナド用ナル。蓋シ山分或ハ□□□□ノ用法。

さかゑニ故ニト云フニ同シ。古老ノ用語ニシテ、今多

ク用ヰズ。／寒イさかゑ衣物を着るナド。

さらへるニ取り尽ス、取り除クト云フ意ナリ。

さつばニ鮮明ヲ云フ。転シテ城府ヲ設ケズシテ人

ニ接シ、言語／ニカクス所ナキヲさつばニ似し

人ト云フ。

さつさとニ瘵。驚々ト云フニ同シ。

さいきやうニ裁許ノ字音ナル可シ。何事ニヨラズ事ヲ

構フテ／支配スルヲ云フ。蓋シ通常語トナレリ。

さつばニ全クト云フニ同シ。一／分らん。

さんきんたんニ僅カノ金錢ト云フ意ナル可シ。』

ハ41表V

ざニ惣テ可能性ノ動詞ノ語尾ニ付ケテ、可能ノ意ヲ／

強ムル語ナリ。単ニ出来「テ」ルト云フ可キヲ、て

けざト云／ヒ、書けるト云フ可キヲ書けざト云フ

ガ如シ。東京ノ語ノあるさナドノさヨリハ範圍セ

マケレトモ、／其意義ハ稍々同シキナリ。但シ此

レハ可能性ノ／モノノミニ付クナリ。／

東京語ノさノ場合ニハ■ざノ場合ノ外ハ「よ」又

ハ「わ」ヲ以テ云フ。良いわ、良いよ。』

ハ41裏V

【白紙】

ハ42表V 43裏 「さ」に予定V

じようにニ多クノ意。又、じやあにト云フ。此ノ語□

□ニ専ラ行ハル。

しんだいニ氣ノ弱ルヲ一ト云フ。

□□□□□□□□□□□□□□□□ナリ。

しなんだふむニ土地ヲ踏ミ鳴ラスヲ云フ也。

「雨の」し「よ」ば／降るニ徐々ニ降ルヲ云フ。

し「よ」ばこにぬれたニ全身悉ク濡「湿」フタルヲ云フ。

しばやニ芝居ヲ云フ。

じ、やらこい馬鹿／＼シイ、白々シイナドノ意。若ク
じ、やら／＼申上ハ申談ノ意。

△注：初め「じ、やらこい」に「馬鹿／＼シイ、
白々シイナドノ意」の説明を付け、「じ、やら
／＼」には「同上」としたが、後に「若クハ申
談ノ意」を付け加えたものと思われる。▽

し、やッてジヤト言フテノ意。
じ、やら申談ノ意。

「誰」しもしハ語ヲ強メテ云フ時ニ用ヰル。』
△44表▽

しぶとい執念ノ意ナリ。

し、わい執念ノ意ニシテヤ、殊ナリ。繰返ス意アリ。

しと人ヲ一ト発音ス。

しとの「物」他人ノ物ト云フ義ナリ。

しとの「物」己レノ物ト云フ義ニモ用ヰラル。

しぶと死人ヲ云フ。

しんにやりこんにやり何レニモ付カズ、中間ニサマ
ヨウヲ云フ。但シ此ノ語博奕ノ語ヨリ来ルト云
フ。

しびれる

さ 寒氣并手足ナド凍リ申申ササルヲ云フ。

しびれる長座シテ足ナドノ自由ニ動力サルヲ云。

しびり同上ノ名詞法ナリ。

し、やんぎり散髪ヲ云フ。

△45裏▽

しわくた単ニ、しわト云フニ同シ。

しを葉ト云ハンガ如シ。此ヲしを■ニ又御注文／申
サン、此ヲ一ニ折々御尋ネ申サンナド。

しば演劇スル所ノ名。蓋シ大抵社内／ニテ為スニヨ
リ、社「ノ」内庭ヲ芝ト云フ。／後世劇場ヲ芝居
ト云フモ、是レ／ヨリ転セシモノナラント云フ。

しめる火ノ滅スルコトヲ云フ。蓋シ概ネ神仏ナドノ
燈／火ノ滅スルヲ云フ。

し、やべる強テ人ニ見セントスルヲ一ト云フ。

しる／＼くるとノ反対ニシテ、物ニ未熟ナルヲ云フ。

しき底ノ方、下ノ方ヲ云フ。（《栄花七巻□□ニ／
其箱のしきにトモ見エタリ。》）

△45表▽

しき積ト云へバ、下積ノコト箱ノしきト云へば、
底。

じやら容易ト云フニ同シ。

じやらハイツハリト云フニ同シ。

しやうぎだをし將基ノ駒たをしノ略ニテ、將基ノ駒
ヲ并列シテ、／サテ其一端ノ駒ヲタラセバ、前列
ノ駒順ニタラガ／如キニ例□タル也。

し、やうじ不斷ト云フニ同シ。

じがまがする小兒ナドノ□ニ静容ナク動キマワルヲ
云フ。

しとしけないしとハひとノ訛。意ハ人聞ノ悪ルイト

云フニ同シ。

しんけんニ真実ト云フニ同シ。

しやぐニ古語ノしだくノ転シタルモノカ。碎キ折ルノ意。

じきニ直チニト同シ。しきニ行ク。しき後二。』

△45裏V

しわ／＼ニ寛々ナド云フニ同シ。

しんしニ汁。小兒。

じよんしニよニ草履。小兒語。

しなかへニしんかへノ転ナルベシ。而シテンハ語調ノ為ニ副ハレ／＼ルモノナル可シ。しかへト云フニ同シ。

しつこいニ又ひつこいトモ云フ。強テスルト云フ意。

しわいニ強テスル意ナリ。

じかニ直接ト云フニ同シ。

じ口しニゆむしむト云フニ同シ。浸むナリ。

しぶくニた／＼くト少シ異ナリ。細キ者ヲ以テタ／＼くヲ

ート／＼云フ。帯、竹ノ如キ類ヲ口口スルヲ云フ。

しやんとニシツカリト云フニ同シ。』

△46表V

しなニ接尾語ナリ。行きしな、取りしな、読みしなノ

／＼如シ。時にト云フ意義ヲモテリ。

しんとニ物ノ真中ヲ云フ。又長キモノ、サキヲ云フ。

竿ノー／＼ト云へハ、竿端ヲ云フカ如シ。

しとつニ數詞「又一品ノ意」又少しノ意。又口調ノ為

ニ云フ。先生ノ説ノ明ハしとつも分らぬナドハ、

少しノ意。しとつ／＼こーッし／＼に行きませう。

しやうたくニ妾ノ宅ヨリ転シテ、妾其者ノ称トナレリ。

*しニ家の人、と同じ意味。

*しやうがないニ致し方がない。』

△46裏V

〔白紙〕

△47表 「し」に予定V

すなニ禁止ニ専ラ用キルニ、後者混用スルコトナシ。

するなニ詠嘆ノ詞ナリ。

ずつしりニ十分ノ義ナリ。

すばぬけるニすべり抜けるト云フト同シ。

すねニ酒呑マサルトキヲ云ク。此ノ語専ラ酒ニ対シテ

云フ。すねノの時、すねは二ハ善キ人ナド云フ

モ皆ナサ酒ニ／＼対シタル語ナリ。

すんがりニ長ノ細長キヲ云フ。△「古語」スガリノ延

ヒタルナリ。スカルのたち、／＼すかる蜂、すかめ、

皆細キ意。△△内は朱書V

すねるニ人ニ從ハズシテ艱難ニマラセルナリ。

ずるこいニ柔弱ト云フ語ニ似タリ。

すがりニ物ノ終、又ハ末ヲ云フ。春すがり、花ノすが

り。

ずきニ芋ノ茎ニノミ、ずきト云フガ如シ。』

△47裏▽

すつぽんこく全クト云フニ同シ。

すりこむ氷節「病人」氣力ヲ失フヤート云フ。

すツくら程よくト云フニ同ジ。

すいなソトで「ぞ」ニすいなトハ一種特色アリト云フ

程ノ意ノナリ。トでト云フ語ハ、コ、ニ限ラズ

多カリ。／モトハ如何ノ意ナリシナレトモ、全ク

疑意ハ失／セテ詠嘆ニ多く用ヰラル、モノアリ。

／又ナントハなる事ヲ略セラレタルモノノ力。是

外、妙ナン、奇れいなシナド。

すつてのことニすでにト云フニ同シ。

あすあしニも、引ノ類ヲはかすして居るを、／すあし

ト云フ。はだしトハ別ナリ。」

△48表▽

ずつしりニ充分ノ意ナルベシ。但シ重量「容積」ノコ

トニノミ云ヘリ。／ずつしり一荷。ずつしり一は

い。

ずけニつゞけノ、つノ省カレタルニテ、続ケテト云フ

意ナリ。」

△48裏▽

【白紙】

△49表△50裏 「す」に予定▽

せいこい山坂ナドヲ登リテ氣ノアヘグヤート云フ。

せがない精ガ無いニテ、勉メ甲斐ガナキヲ云フ。

せりあやい競争ヲ云フ。競争合ハ意ナリ。／

某處 やいハモト合ひノ転ナラン。然レトモ今ハ

／競フ意ニ転シタルガ如シ。走りやい、早やい、

／ふとやい。

せわな面倒なト云フニ同シ。

ぜ又ぜーニそえノ約リコシルモノナルベシ。是レ何ニ

ぜー、／今往くぜ。

せわしない忙シイト云フニ同シ。ないトハ語ヲ強ム

ルナリ。古語ヨリ転ズ。

*せんばニ十能の事。」

△51表▽

【白紙】

△51裏△54表 「せ」に予定▽

そんじやけんどの夫レジヤケレトノモ意ナリ。

ぞん／する熱発ナドシテ、身体ノ震動スルガ如き

クナルヲ／ースルト云フ。

そニ草履鞋ナドヲ作ル可キ繩ヲ云フ。

そつとニ少シト云フ意ナリ。そつとの間、そつと買フ

／ナド。

昔そう「オ」で追付ノ意。

そりがあはぬ事ノ反対ニナルコトヲ云フ。親子ノそ

りがあはぬト云ヘバ、親子ノなか悪しくして物

々反対ニナ／ルヲ云フ。

ぞい／＼ソル。頭ヲソルコト。小児語。
ぞーっけない」

△54裏V

ぞー詰問ノ意ナリ。何しよるぞ、何時「イツ」来るぞナド
ノ／＼如シ。疑問ノかトハ少シ異ナリ。
ぞーたん／＼京阪地方ノしよたんト同シ。但シ転訛セ
シ者。」

△55表V

【白紙】

△55裏△57裏 「そ」に予定V

「小便」たんご。／＼溺スル所ヲ云フナリ。

「しよう」たんご／＼井戸ノ水ヲ捨ツル所ヲ云フナリ。

たツつあん／＼母ヲ云フナリ。

た「ツ」やた／＼唯ト云フニ同シ。たツた独り、たツた

一トツナド。

たてまい／＼建築ヲ云フ。

だらけ／＼悉ク其物ナルヲ云フ。灰たらけト云フ。一面

ニ灰ナルヲ云。

だらける／＼戯ムルヲ云。

■ だりひり／＼伸縮ノ義ナリ。

だシない／＼構ハヌト云フニ同シ。

だじない／＼同上。

「手が」だい、／＼手ノ堅ク「コワシ」ナルヲ云フ。」

△58表V

だいましい／＼同上。

だます／＼欺クヲ云。

だまかす／＼前条ニ同シ。

たばかり／＼前条ニ同シ。

たつた／＼僅ト云フニ同シ。たツツ一文。たツタ一トツ。

たツすい／＼思慮ナシト謂ハンガ如シ。

たいそうな／＼物憂イト云フニ同シ。

たびね／＼仮寝ヲ云フ。「旅寝ノ義カ」

たぶね／＼同上。

たゆう／＼神官ノ惣称。

たゆう／＼淨瑠璃かたりノ惣称。

だいこん／＼拙手ノ芸者ヲ一ト云フ。」

△58裏V

たげる／＼盗ムト云フニ同シ。

たしやう／＼大将ノ字音。家ノ主人ト云フニ同シ。妻

ヨリ／＼他ニ向テ、己レノ夫ヲ呼ブニ一ト云フ。

又他ヨリ／＼長上ノ人ニ対シテモ一ト呼ブ。

たか／＼価値ト云フニ同シ。たか／＼知レタヤ其彼レ／＼デ

ハナイカ。たか／＼小使如キ者ナド。

たどる／＼老衰シテ精神ヲ失フヲ一ト云フ。

たんと／＼多クト云フニ同シ。

たれこむハ落シ込ムヲ云。河ニたれこむ。溝へたれこむ。

たばハ女ノ髪ノふくらしに入ル、モノ。髪筋ヲ多／＼ヨセワ、ゲタルモノ。

だちハ初メ、或ハ直チニナド、云フニ同シキカ。来だち。□リ

△59表V

だち。蓋シ離レテハ用ヅラレズ。接尾語力。

たんだハ足袋。小兒語。

たつちハ立ツ。小兒語。

たつたハテアツタヲ約■「メ」テ云フ語。置「ヨイ」た、

つた、ナドノ如し。／蓋シ多クハ正シク云ヘリ。

たハ見よつた。往きよつたナド。サテコロたヲ過去ノ

時ノヲ顯ハス語ナリト云フ人アリ。非ナル可シ。

是レハ確定ヲ／顯ハス語ナル可シ。故ニ現在ニ云

へハ、見よつた、未来ノニ云へハ、こけよつた、

過去ニ云へハ見たトナル。

たつぶらハ充分ノ意。

だんだハないハ大事ナシト云フニ同シ。』

△59裏V

たつすいハ馬鹿ラシイト云フニ同シ。』

△60表V

【白紙】

△60裏V 61表 「た」に予定V

ちよびりハ僅カト云フニ同シ。

ちん／＼ふむハ小兒ナドノ泣クトキ、土地ヲ踏ムモノ

ナリ。是レヲ／＼／ちん／＼／ふんで泣クト云フ。

ちん／＼小兒ノ片足ヲカゞメ、片足ニテ歩ムヲ云フ。

ぢいハ老男ヲ云フ。

ちツとばハ小量斗リヲ云フ。

ぢびるハ糞ノ放リ出ツルヲ云フ。

ぢよびるハ夕方ニ「川池」水面ニ、小魚ノ浮塵子ナド

ヲ取ラントテ／水面ニ飛出ツルヲ云フ。

ぢびるハ用ヅテ滅自然ニ滅亡スルヲ云フ。

ぢびんやハ物吝ミスルモノヲ云フ。

ぢよんまげハ結髪ヲ云フ。』

△61裏V

ちやんハサント云フニ同シ。人名ノ下ニ附ケテ人ヲ呼

ブトキ／二用ヅル。

ちやのこハ略シテちやアトモ云フ。早朝ニ物スル飯食

ナリ。／序ニ曰フ。あさはん、十時頃ニ食スル飯

ナリ。／ちやづけ、二時ニ食スル飯。よはん又ゆ

うは／ん、夜ニ入リテ食スル飯ナリ。

右ハ普通稱スル所ナリ。又ごはん、こぜん／ト稱

スルハあさはん即チ十時食ニ限ラル。又や／しよ

クト云へハ夜中、ゆうはんノ外ニ食スル／臨時ノ

食ナリ。

ちあるハ山崩る、ヲーイト云フ。山がちある、ノ又転
シテ落ツルコトニモ、下リルコトニモ云フガ如」

△62表V

シ。■木から、うちちゝある、又たれちノゝあるナ
ド。

又子守ノ背ヨリ子供ノ下リ方下リタルヲ、ノ子ガ
ずりちある、ト云フ。又、飛びちゝある。

ちやんちやハ茶。小兒語。

ちやんとハ確然ノ義。

ちゝやすハ動詞ニ付キテ語ヲ強ク云フトキニ用ラル。但

シノ鄙語ナリ。然シテ多ク使用セラル。ネギノリ

ちやす。はりちゝやす。但接尾ニシテ意義ハ「下ス」

ト云フコトナラン。

ちやすハつゝいやかすノ意ニテ、腫物ナドハ意」

△62裏V

ノ腫脹ヲ出スヲ云フナリ。

ちよるハ待ツちよる。外多クヲ聞カズ。土佐方言ノ如

クノ多カラス。」

△63表V

【白紙】

△63裏ハ64裏 「ち」に予定V

つぶしハ膝頭ヲ云フ。

つばへるハ善「ヨキ」キモノヲ好ミテ、悪シキヲ取ラサル
ヲーイト云フ。増長スル意。

つかはれハ下サレノ意ナリ。又つかハクレノ意、はれ
ハ敬語。

つむハ散髪スルヲーイト云フ。

つゝハ物ヲ突ヲ言フ。乃チ著々ナドヲモテ飯ナド

突ヲーイト云フ。又転シテ、ハレモノナドニつゝ、

くガ如ク、イタク覺ユルヲーイト云フ。

つむハ鳥ノ物ヲ食フヲーイト云フ。

つとハ女ノ髪ノ、首筋へ出シタルびんヲーイト云フ。

つむりハ人ノ頭テーイト云フ。蓋シ敬語。

つなハト云フノハ、ト云フ意。某つなトコノ子ナド。

つめハこゝたもとノコト。又たもこトモ云フ。

づくハまハト云フニ同シ。往かんづく。見ぬづく。」

△65表V

【白紙】

△65裏ハ68表 「つ」に予定V

てんまをつれるハ小供ヲ携フルニ同シ。

てんでこまいハ非常ニイソガワシキヲ形容。

てぶりハ身辺「三」何ニモ附ケズシテ行クヲーイト行ク

ト云フ。

てうだいハ頂戴ノ字音ナリ。ツカサレト云フコトニ用

キナル。取テ頂戴、言フテ頂戴ナドノ如シ。此

ノノ語今来中等以上ノ人々ニ行ハル。

てれるニ衆人ニ顔見ラレテ、自ラ顔赤クナリノテ、其所ニモ居難クナルヲてれるト云フ。

でこー又でこんぼうニ人形ヲ云フ。転シテ人形芝居ヲ云フ。《所謂道君房ノ転》

て「ん」ごう「お」ニ弄スル意ナリ。滑稽ノ意アルカ。

《蘭楽》字音ヨリ来ル意ナリ。

てんこニ徒ナル悪事トモ云フ可キカ。

てがながいニ盗心アルヲ云フ。』

△68裏V

てニ諸藩ノ中間ニ音ヲ一々蕭波ニルキハ本ニ

リ音ノ約アルカ例ニ取リテ、

持ツルニ如シ、假シテ、滑ルキハ約アル

カト、東ニナシ、南ガノ上ニナシ、雪ノ積シテ

者ルナリ

取テ見ル、往テ見ルナドアレバ、以上ノ定メハ非ナリ。

てしニ自ラ作ル「事」ヲ一ト云フ。動詞ナリ。

て實「づ」くりニ自ラ作リタル者。又転シテ、素人ノ

作リタルモノヲモ云フ。ノ名詞ナリ。

てすりこんぼニ手ヲスリテ、テヘンヒタスラ頼ムヲ一

ト云フ。

てんじようやすく

てんでニ手。小兒語。

てニ方ト云フニ同シ。アツチテ、ウラテ、前テ。

△この項、朱書V

△69表V

でニカト云フニ略同シ。■ありますで。コレデ。△この項、朱書V

の項、朱書V

てニト云フニ同シ。下ノ語ヲ多ク省略スルコトアリ。

今日行ノくんでて(云ヒマシタヲ省セリ)。

てんずりはんずりニ過不及アルヲ云フ。

てんぶなニ■思慮ナシニナキ人。難冒「ケンボウ」ナドノ意。

てんりやうニハバカル所ナキ意ニシテ、旧幕時代ニ天

領トテ朝廷ノ領ノセラレタル莊園ニハ守護ノ立入

ルコトヲ得サリシヨリ、自然トナシノハナリ

ヲナシハバカル所ナリ。「チヨバク」ナドヲ為

シ得ラレシノヨリ起リシコトト思フ。

てんとうニ天ト云フニ同シ。』

△69裏V

〔白紙〕

△70表△71裏 「て」に予定V

とろいニ■摩ナサリ意 疎イト同シ。

とろくそニ白痴。

とづくニ打ツタ、クニ同シ。

どてニ堤防ヲ云フナリ。

とへるニ泣クコトヲ云フナリ。

とつびしたニカケヲチヲナシタルコトヲ云フ。

とツつあん^ニ父ヲ云フナリ。

「草ガ生エ」とる^ニてをるノ約言。是ノ語多カリ。

とつぬけ^ニ忘レ易キ性ヲ云フ。

とろくそ^ニ白癩、馬鹿物^ニナド云フニ同シ。

とうす^ニ酒ヲ、アタ、メルヲ^ニト云フ。

どさくさまぎれ^ニ騒動ノマギレト云フ意ナリ。』

△72表V

どくれる^ニ心ニ怒ルナリ。不服ノ意ナリ。

とうふのはちはい^ニ麁粗末ナル払舞ニテ、多クハ舞臺

「時」ニ云フコトナリ。

どつき^ニやら^ニトコヤラト云フニ同シ。

とばしり^ニ水ノ、物ニ当リテ四散スル^ニヲ云フ。

とばしり^ニ同上ノ語ノ転シテ、物事ノ余勢^ニヲ云フ

フニ^ニ用ナル。

とつと^ニにはとりヲ云フ。但シ小兒自ラ言ヒ、又小兒

ニ^ニ向テ云フ語。

とうとう^ニ終ニト云フニ同シ。

どろかい^ニ濃^ニ液ヲ云フ。

どろ^ニ同上。

どろ^ニ土ヲ^ニト云フ。

どじる^ニ進退谷マルト云フニ同シ。』

△72裏V

とつと、疾ク^ニと云フニ同シ。

とる^ニてをるノ約マリテとるトナルコト常ナリ。取と

る、見^ニと^ニ、読^ニどる。濁ルモ同シ。

と、^ニ魚ヲ云フ。小兒ノ語。

と、び^ニ同シ。

とうなりこをなり^ニ漸クノ意。又大略。

どちる^ニ苦ム意カ。

どつこい^ニ発語。某 欺詞。

どつち^ニやいせ^ニいずれト云フニ同シ。

とつちや^ニトチラ。

とんこ^ニ高キ絶頂ヲ云フ。木のとんこ、山のとんこ。

どーばる^ニ仇^ニシテ動カナ^ニルヲ云。』

△73表V

どんぶくろ^ニ傾城反魂香ニかなしゆてならぬ^ニどうぶ

くらにトアリ□□□□シテ^ニハ^ニた、ナカニト

云フ心ナリ。是ト同シ意ナリ。

とんこ^ニ木或ハ峯ノ絶頂ヲ云フ。

*とびつ^ニ米を入る箱。

*どやす^ニたたく事。身中喧嘩などして体をたたく事。

*どたま^ニ頭の事。

*どたま^ニかち^ニ頭の大き事。

*とへる

*どツチエ^ニル』

△73裏V

【白紙】

△74表△75表 「と」に予定V

なごりなさけ^ニもないト云へハつらきコトノ極ヲ云フ。

なれとる^ニ道路ナドノ平垣^ニナルヲ云フ。

なれとる^ニ同心^ノ意^ニナリノ意ニテ、なれようて／

人ヲ耽リナド云心ヲ合セテ行為ヲナスナリ。

なれとる^ニ練習シテヲルト云フニ同シ。

なれとる^ニ又味噌ナドノ能ク混合シテ、食ヘル程ニナ

リタ／ルヲ云フ。

なん^ニサント云フニ同シ。人名ノ下ニ附ケテ、人ヲ呼

ブニ用キル。／サレド極メテ卑語。

なんぼ^ニイクラト云フ語ニ同シ。疑問代詞。

なり^ニ様^ニ、風ナド云ハンガ如シ。

なまる^ニアクセントヲ殊ニスルヲ一ト云フ。東京ナ

ドニハ、訛ヲ一

ハ75裏V

ト云フト云フ。

なに^ニ「し」ように^ニ古語ノなにせんにト云フニ同シ。

なに^ニしやうにいらぬト云／意ナリ。又なんしやう

にトモ云フ。

なんじ^ニや^ニ否ト云フニ同シ。又斯ウだト云フ意ニモ用

キラル。

なんならかもた^ニ「こ」か^ニなんであらふがかまふたこと

かノ略言。

なんなら^ニ如何ならノ意。

なんじやにならぬ^ニ何ニモ成ラヌト云フ意ナリ。

な^ニ東京語ノねート同シ。

なへ^ニ是レモねート同シ。

ない

なあ

なにか^ニ副詞ト且爾波トナリ。尚なにかト云フガ如シ。

□ノガノ反

ハ76表V

語ノ用ヲナス。

なもし^ニあのなもし、そーですなもし／等。

な、^ニ下女ノコトナリ。近時此称絶ヘタリ。／祖谷一

字アタリニハ尚此語アリト／云フ。』

ハ76裏V

【白紙】

ハ77表、78裏 「な」に予定V

にげる^ニ或ハぬけるトモ云フ。逃ケルト同シ。

にしめ^ニ煮テ副食トナシタルモノ。

にこ／＼^ニ喜びノ顔面ニ表ハル、様ニテ、乃チ内心ニ

笑ひ／て顔面ニ表ル、^ニナリ。

にんぐわし^ニにぎはしノ訛。』

ハ79表V

【白紙】

△79裏△82表 「に」に予定▽

ぬかす言フト云フニ同シ。』

△82裏▽

【白紙】

△83表△85裏 「ぬ」に予定▽

ねそすける言論シテ、人ノワズカノ語失ヲトラヘテ

ギ^ニビシクノ論シテ、対人ヲシテ語ヲ置ク所ナカラシムルヲ云フ。

ねき^ニ傍ヲ云フナリ。人ノねき、家ノねきナド。

ねられん^ニ其所ニテハ、ぬるベカラズト制スルトキニ用ヅラル。

ねえられん^ニねんとシテねられぬ意ナリ。

ね^ニ赤子ヲ云フ。

ね^ニこ^ニ同上。

ね^ニこまくら^ニ布ヲ以テ製シタル丸キ枕ヲ云フ。

ねし^ニねし^ニ頭痛がする。

ねんね^ニねる。小兒語。

ね^ニよと「ト」云フ程ノ意ナリ。但シ独語ノ際ニ発スル感動詞ナリ。例□ハ今夜ら暗イね^ニ、』

△86表▽

寒いね^ニナドノ如シ。必ス独語ノ時ニ限ル。／対語ノトキハな^ニ、或ハ少シ下目ニハの^ニ／ナド用

ナル。』

△86裏▽

【白紙】

△87表△89表 「ね」に予定▽

のあき^ニ降雨シテ田地ヲヒタス程ノ水ヲ^ニート云フ。

のわき^ニ同上。

のら^ニ怠ル意ナリ。

のろけ^ニける^ニ女ニ心ヲ入ル、ナリ。

のこり^ニこまりなし^ニ残りヲシミハナシトナリ。

のつて^ニ「ガ故ニ」ト云フ意ナリ。此語現今漸々跡ヲ

絶^ニ／タントス^ニモノ、如シ。只古老ノ話頭ニ於テ

問ハ^ニ聞クヲ得ルノミ。例「そし^ニや^ニのつて 夫レ

ジャ^ニカラ」年寄ツタのつて 年寄ツタカラシ

テ^ニ／寒い^ニのつて行カヌ。寒いカラシテ行カヌ。

のす^ニいた^ニく^ニト云フニ同シ。蓋シ小人ノ言語。

のつびき^ニならぬ^ニ進退極マルト云意。』

△89裏▽

のか^ニ角度ノ広キニ過クルヲ云フ。例ハ農夫ノ用ヅ

ル手^ニ／鋏ニ対テ^ニゆ^ニコノ手鋏ハのかなト云ヘバ、

サキト柄^ニ／トノ角度ノ広キヲ云フナリ。

のし^ニ主ノ意ナリ。魚ののし。山ののし。』

△90表▽

【白紙】

△90裏△92裏 「の」に予定▽

はりこむ△重ネ増スノ意ナリ。

はしる△走ルト同シ。

ばんば△難人形ノ類ヲ云フ。但シ小児ニノミ云フ。

ばあ△老女ヲ云フ。

はいこい△早く来△こいト同シ。

はがい△悪シミヲ感ズルヲ云フ。

はがいたらしい△同上。

はでな△をこりがましきノ義ナリ。

はずむ△盛大ニスル義ナリ。

はれ△詠歎ノ詞ナリ。次ノ語ト共ニ□□□□ニ多ク

用ナル。

はりや△同上。

ばッば△負小児ヲ負フコトニモ、又負ハル、コトニモ

用ナル。』

△93表▽

ばい△まばゆき意ナリ。

はいりよう△拝領ノ字音ナリ。ツカサレト云フ意ニ用

ナル。／其物取テはいりようナド云フ。此ノ語中

等／以上殊ニ婦人ノ間ニ行ハル。

はざける△物ト物トノ間ニ差入ルルヲ云フ。

ばあ△ばかりト云フニ同シ。たつた一文ばあ。たつた

一トつばあ。

はん△サント云フニ同シ。人名ノ下ニ附シテ人ヲ呼ブ

トキ／ニ用ナル。《又関東語ノ様ヲ用ナル場合、

乃チ御苦労ノ様(サマ)ト云フ場合ニ、ゴクロー

ハント云フガ如シ。》

下駄ノはま△齒ヲ云フ。或国ニハ、単ニはトノミ云フ

ト云ヘ／レバ是ニ出シツ。

はし△このした△酒■ニ対シテ言フ語ニシテ、水ノ事ナ

リ。蓋／シ通常酒屋ニテハ、はし△この下ニ水桶』

△93裏▽

ヲ置キテ、酒ニ混シテ売ルニヨリテ、是ノ語アリ。

／尤モ一般ニ通スル語ナリ。

はりひじ△張腕力。公然ト言ハンカ如シ。

はかゑ△故ニノ意ナリ。さかゑト同シ。悪イはかゑ／

堪△こら△ヘテヤクレナド用ナル。

はいる△単ニ入ルト云フニ同シ。(古語ニはひいるト

云フモ同シカ)／源語卷十五十二丁ウ、ふとはひ

いり／玉ひて。

はなあかす△素志ヲ空ウセシムノ意ナリ。はながあい

たト云ヘバ、素志ガ空クナ□タト云フ意ナリ。蓋

シ素志トハ、豫テ約／束シ置ケリシ素志ナリ。

はやす△ドット笑フヲ云フ。

はしり△井戸バタノ「ヨリ」井ノ■しりへ通ルルシ水ヲ走

ラスモノ。』

△94表▽

はやつけぎニ所謂マツチナリ。

ハ上部欄外に鉛筆で「はやすり」と書き込みあり
はつほ「オ」ニ初穂ノ音読ナリ。意義転シテ物ニ最初ノ

物ト云フノ意ニ用ナル。即チ茶初穂 酒初穂等尚
多シ。ノ又転シテ神事ニ金錢ノ事ヲ初穂ト云フ。
ノ即チ大祓ノ代価何錢ト云ハズシテ大祓ノ初穂何
錢ト云フ。

はしかニ麦穂ノ毛ヲ云フ。《けさしきいヨリはしかノ
名詞ヲ生ミタルナル可シ。》

はしかいニ麦の穂の毛を扱フトキハ、イタガユキ感ノ
ジヲスルモノナリ。其触感ヲ一ト云フ。ノ転シ
テ、麦ノ穂ナラサルモ、塵ナドノ附キタノルニモ
云フ。

はずむニ盛ナルヲ云フ。角力がはずむ。
ハ94裏V

宴会がはずむ。

はたニ傍ト云フニ同シ。

はざニ常、或ハ其間「合」ナド云フニ同シ。

はらひニ相償ノ意ナリ。

ばいふるニ単ニふるト云フト同シ。

はがい

はだしニはきものをはかずむずして地を歩むヲはだ
しであるクトいふ。

はなニ始メヲ云フ。しよはなトモ云フ。ーが大事。

はう「ハ」ニ□□□「方」ノ音ナリ。普通ハ「ホ」ト

云フナリ。是レ然シナカラノ古語ヲ伝ヘタルモノ
ナリ。「方」ノ字音ハ実ニ「ハウ」ニシテ「ホウ」
ナラス。「ウ」ヲ「ー」ト引クハ其例多シ。ハこ
ノ項、青インク、ペン書きV

ハ95表V

【白紙】

ハ95裏・96表V

ひねくるニ人指ト母指トヲモテ物ヲヒネルヲ云フ。

ひんねらむ。此もむニラムト同じ。

ひとそばえるニ他人ノ前ニテ、小兒ノ常ニハセザル
芸ナドヲ示シノ或ハ云フベカラサル言語ヲ弄スル
ヲ云フ。

ひなたばさつこニ日アタリノ宜キ所ニテ、アタタマル
ヲ云フ。《母ノ子ヲ腰中ほところヘ入レルヲ「ほ
つこする」ト云ヘバ、ほつこトハ是等ノ意義ヲ含
メルナルベシ。》

ひこするニ引キズルト云フニ同じ。

ひつしやりニ余地ナキ意ナリ。悉ク満ツルヲ云フ。

ひつしりニ同上。

びんぼニ貧シキニ云フ。

びんぼたれニ同上。

ひつこいニ執念ノ意ナリ。

ひよつとニ万一ト云ハンガ如シ。

△ 96 裏 V

ひだり水ノ事ナリ。蓋酒ニ口ノミ云フ。一般ノ通語。
ひだるい口空腹腹ヲ云フ。

ひんける口干「カウク」ヲ云フ。

ひわかい口単ニ若シト云フニ同じ。栄花口口卷七ノ二
口八ノ二、ちうたき声のひわかくほそく云云トアリ。今古同じキニヤ。

ひなへる口日になへるト云フ義ナラン。

ひんかす口日ニ干ヲ云フ。

ひろぐ口又さらす、為るノ言フ可キヲ卑メ言ふ也。ノ
何ひろぐ、何さらすナド、シハ口八コギ口ノ

口頭ニ聞ク所ナリ。

ひよう「オ」し口多ク運ト云フ意ニ用ヅル。ひようしの
善い」

△ 97 表 V

ひなみくさい口木綿紙ナドノヤケルヲ嘆イテート云
フ。モトノハ小兒ナドノ火ナヤミテ、「往々」衣

類ナドヤクヨリ、其嘆ノヲ聞イテ、直チニ小兒ノ
火ナヤミスルト思ヒ、夫レヤノガテ転ジテ其嘆ヲ

ひなやみトハ云ヒナセルナラン。

ひつつい口ついヘト云フニ同じ。

ひっそく口家政ノカタムクヲ云フ。

ひよろける口転スルヲ云フ。

ひどい口きびしト云フニ同じ。悪事がひどい。ノひと

い寒氣。又転シ、下ノ語ヲ略シテ勉勵ノナドノ意
ヒナキ。君ハひどいなあ。おひとノこさります
な。

ひろぐ口鄙語ナリ。するト云フニ同じ。』

△ 97 裏 V

ひらける口物恥せぬヲ云。

ひっそく口質素ノ転ナル可シ。シノヒト転スル例多シ。

びやあ口これびやあ、あればやあナド。此方言ハ阿ノ
波一般ノ方言ト見ユ。祖谷ノ方言トシテ徳島毎ノ

日紙ニ掲載セシコトアリ。

*びしよになる』

△ 98 表 V

【白紙】

△ 98 裏 △ 99 裏 「ひ」に予定 V

ぶちち口やめ口単ニ止メト云フニ同じ。

ぶち殺ス口単ニ殺スト云フニ同じ。ぶんなぐるナド多
シ。

ふみにゆく口往吊スルヲ云フ。

ぶんぶ口水ヲ云フ。小兒ニ専ラ用ヅル。

ぶげんし口や口不限者ノ義力。富家ヲ云フナリ。

ふさがり口方ふさがりナド云ヒテ、昔ノ「和」書ニ見
エタルふたがりト同じ。

ふさがる口俗ニいつばいになるナド云フト同じテ、蓋

□ナル。ホサガ／リ意ナリ。

ふせようゝ物事ヲ勞トシテ成サザルヲ云フ。
ふるゝ漏ゝこるゝコトヲ云フ。雨がふゝ。傘の横ぶ
り。

ふゝ火。小兒語。

ふゝするゝやくト云フニ同シ。小兒語。』

△100表V

【白紙】

△100裏ゝ103表 「ふ」に予定V

へんがかわるゝ重言ノ如シ。単ニ変ハルト云フ意ナリ。

へんトハ変ノ字音カ。

へそばるゝしほむト云フニ同シ。

へんじよゝこんごゝ仏語ヨリ出タル語ナリ。歎願

ト云フ意味ニ多ク使フ。

へとろにゝ非常にと云フニ同シ。

へゝ着物。小兒語。

へらこゝいゝ小賢しト云フニ同シ。△この項、朱書V

へんそ

へんゝ動詞ニ下ニ属シテ、せん「ぬ」ト云フ意義ヲ有

ス。／せゝへん。為ハせぬノ意。行けへん。行キ

ハせ／ぬノ意ナリ。

へらゝ里分ニテ、わきト云フニ同シ。山分ニテ専／ラ

云フ。』

△103裏V

*へらこゝい』

△104表V

【白紙】

△104裏ゝ106表 「へ」に予定V

ほつとけゝ捨テ置クト同シ。打遣リテ置クノ意。

ほぐしゝ一尺計リノくいニテ、布ヲ経ルモノ。

ほんまゝ真実ト云フニ同シ。

ほうずのないゝ当テノナキ、又ハ思ヒモツカ■ヌコト
ヲ云フナリ。

ほうかいゝ左様カヘト云フニ同シ。

ほをちゝやぶゝ頬ヲ云フナリ。

ほをたぶゝ上ニ同シ。

ほんじゝやけんどもゝ「そんじや■けんどもニ同シ。夫レジ
ヤケレドモノ意ナリ。

ほをけにするゝアナドルノ意ナリ。

ぼんゝ悉ク皆ナナドノ意ナリ。

ほをるゝ「俗ニ」なげるト云フニ同シ。投ト同シ意ナ
リ。

ほをるゝ打捨置ト云フ場合ニ用ヰル。抛擲ノ字ノ意。』

△106裏V

ほたえるゝ戯レ狂ウヲ云フ。

ほねをるゝ勉メテスル事ヲ云フ。

ぼつかん^ニ水面^ニ丸キ水玉ノ浮ブコトアリ。其水玉ヲ
ート云フ。／又花ノつほみヲモ云フ。又転シテ
草木ナド^ニ／丸キモノアレバ亦称ス。然レトモ甚
夕局レリ。

ほう「おけにする^ニ馬鹿^ニスルヲ云フ。

ほいて^ニ又ほしてトモ云。而シテノ意ナリ。

ほう「おど^ニ蓋ノ義^ニシテ、はら草ナドヲ積ミタル上

ニ、蓋ノフモノシテ、をいト云フニ同シ。

ぼつちり^ニ少しト云フニ同シ。

ほうじよう^ニ麦ノ穂ヲ打チタルかすヲート云フ。／

因ニ云フ麦ノ穂ヲ打ツニ当ヲ悉ク打終リタルニ」

△107表V

中ニ其俣ノ穂アルコトアリ。是レヲ称シテ／をに
ぼト云フ。

ほつこら^ニ程善クト云フニ同シ。

ほう「おこう^ニ「お^ニ人ニ使ハル、ヲほうこうト云フ。

奉行^ニヨリ来レルモノ引／テ□□

ほん^ニ本ノ字音力。将タほんま「ほんとに」ノ約力。

實際ト云フニ同シキ力。／此ノ画ノ美人ハ、ほん

生き人の様なナド。

*ぼぼ^ニ腹のふたころの事で、物をふたころに□□

事で、ぼぼへ□□□すそかと□□□幼語なり。或

は腹の意なり。

*ほうで^ニそうですかと同じ。

*ほうけ^ニそうですかと同じ。

*ほんなんいや^ニそんな事いやと同じ。』

△107裏V

【白紙】

△108表△109裏 「ほ」に予定V

ませる^ニ成人ブルヲ云フ也。

「こ」ませる^ニ同上。

「目」まあす^ニまわすト同ジ。

まんで^ニ全ク皆ナ悉クナドト同シ。

まけ／＼入れる^ニ十分ニ入レルヲ云フナリ。

まんざら^ニ全ク更ラニノ意ナリ。

まい／＼した^ニ非常ニいそがはしきヲ形容スル詞ナリ。

まあ／＼^ニ詠歎詞ナリ。又誘フノ義アリ。

まめ^ニ不性^ニ反対ニテ、物事ヲナスニ労トセザルヲ

云。

まんする^ニ止^ニムルト云フニ同シ。

ま、ぎる^ニ眼前ニテ物ナドヲ振ルヲ云フ。

まんじうなり^ニ漫々頭状ニテ、所謂漫頭「ノ」菓子

ナリ蓋シ』

△110表V

壺昔時ハ其形状「槽」隨円形に（○）テ、／ま
んしうなりト云ヘド随々円形ヲ意味セリ。／然ル
ニ当今ハ其形状専ラ正円形トナレトモ、／まんじ
うなりト云フハ矢張随々円形ヲ意シ／テナル。又

漫々頭笠。

ま、めし、こぜん、こはん、トモ云フ。飯ノコトナリ。

まし／＼と恒然トシテ居ルヲ云フ。

まどへ又まどいトモ云。和泉ノ最庭ニスル桶ヲ云フ。

まんべに片落ちナクニト云フニ同シ。

まあるニ事のしは／＼ナルニ云フナリ。言ひまあゝ、

衣まある、／＼見まある、為「シ」まあるナド、皆ナ

其意ハ言ふ、着るト云フ／＼意ナリ。めぐるト様ノ

意更ニナシ。』

△1110裏V

まがるニ散障リニナルヲ云フ。柱がまがつて物が見え

ない。／＼小供がまがつて仕事が出来ぬ。

まけるニアブル、ト云フニ同シ。

*まどへ、まんでくれ。ニ割賞せよと同シ。』

△1111表V

【白紙】

△1111裏△1113表 「ま」に予定V

みつめニ婚礼ノ三日目、遣り方ヨリ取方へ両親ノ行

ク儀式ノヲみつめト云フ。三日目ノ意ナランカ。

まくるニ取り除クヲ云フ。

みっかなげずニ三日ニ揚ケズニシテ、意ハしば／＼ト

同シ。ーやすむ、／＼くる。

みたやうなニの如きト云フニ同ジ。馬みた様「な」顔、

吾みた様／＼小人ナド。

*めめずニみみずの事。』

△1113裏V

【白紙】

△1114表△1116裏 「め」に予定V

むくるニ歩ムノ意。専ラ新民俗落ノ用語。

むし、やくし、やするニ氣結ボルルトキノ形容。

むち、やいきニ無理ナリニト云フニ同シ。

むしやぶりつくニ勢強ク、カキツクナリ。

ンねニ姉ヲ云フナリ。

むねやげニ上棟ナリ。

むねあげニ同上。

んまへるニ湯ニ水ヲ加ヘテ加減スルヲ云フ。

むツくり起きるニ小兒ナドノ寝テ居タルガ、自然ニ起

キ出ツルヲ云フ。

むすびニ飯ヲ握リテ三角形ニシタルモノ。弁当ナトニ

スル也。

むもうニ小兒ノ牛ヲ称スル語。』

△1117表V

むだニ徒ノ意ナリ。

むらニ乱レタルヲ云フ。又ソロハサルヲ云。ムラ食ト

云へハ、飲食ノ序ナラサルヲ云フ。道路ガムラニ
ナリテヲルト云へハ、道ニ高ノ低アルヲ云フナリ。
ムラ心。

むすび飯ヲ三角ニニギリタルモノヲ云フ。弁当ニ用
キル。

むすび形ニ三角形ヲ云フ。

むげしやうなニ惨（刻）ナト云フニ同シ。』

△117裏▽

【白紙】

△118表▽120表 「む」に予定▽

めんめらし面々「等」ノ意ニシテ、自分等ト云フニ同
ジ。

めんどらしいニ外聞ノ悪イ。外見ノ悪イナド云フニ同
シ。

めがないニ女ニめがない。欲ニめがない。

めんめ目。小兒語。

めんニ雌ナリ。又雄ヲをん。又めんす、をんす。

*めんどこさいニ面當（あ）な事。』

△120裏▽

【白紙】

△121表▽123裏 「め」に予定▽

ものニ腫ヲ云フ。

もンてこいニモドリテコイノ意ナリ。《モドルト単用
スルコトハ稀ナリ。多ク、ノコイトカ、クルトカ
ヲ列ネテ用キル。》

もツてツツ、ト云フニ同シ。笑ヒモツテ、往キモツテ、
皆同ジ。

もつとニ「モスコシ」ト云フ意ナリ。もつとしたらハ、
モ少シシノタラバノ意ニテ、時ニ云ヒ、もつとく
れ、モ少シ具レニテ事物ニ云フ。ノ是ノ語、貴賤

ヲ通シテ普ク行ハル、俗語ナリ。

もしニ呼カケニ用キル。もしノ。もしノ、物ヲ御

尋ネノ申□□ナド。

もぶるニ或物体ニ粉ナドヲ付クルヲ一ト云フ。團ノ
だんこニ粉もふる、こみをもぶるノ等ニシテ他動
ナリ。』

△124表▽

もぶれるニ同上ニ同シ。但シ、自動詞ナリ。こみにも

ぶれる。

もぶれるニ前者ノ転シタルモノカ。子ガ親ニもぶれる

ノナド。』

△124裏▽

【白紙】

△125表▽127表 「も」に予定▽

やいとニ灸ヲ云フナリ。やいとときめ！。

やたら「やんだ」ニ非常にト云フニ同シ。《太平記ニ

矢だうなにトアル同シ意ノナル可シ。》

やあ「イラエル言葉。

やッぱ「り」矢張ト云フニ同シ。

やンよする「小兒ニ云フ語ナリ。両手ヲ双方ヘ延バス

ヲ云フナリ。

やからゆう「無理ヲ云フト云フニ同シ。

やらしい「又イノ字「音」ヲ附テ、いやらしいトモ云

フ。悪「ラシ」シト／云フ意ナリ。

やんち「やな」弱小ノ意。――からだ。

やくだ、ん「多ク不用ノ意義ニ用ヅル。

やだら「ア「マ」リト云フ語ニ同シ。

やツと「漸ク」ト云フ意。やツとかゝる。』

△127裏V

やツと御久々御座りますナド。

やせじ、ハヤセ賀ヲ云。やせしつヨリ転シテ、やせじ

ち、／やせじ、やせぎすトナレルカ如シ。

やれ／「嘆詞ナリ。――しんど。――も――しらん。

やいとぎゆう「灸ヲスエテ後、労ヲ慰メン為メニ、豆

ナドイリテ人ニ／モ与ヘ、自ラモ「エルヲ云。や

いとぎやうノ訛。鶴衣三七。

や、こし「あいまいなト云フニ同シ。

*やどし「青大将の事。』

△128表V

【白紙】

△128裏、130裏 「や」に予定V

ゆきつらう「往ツタデアロウト云フニ同シ。山分ニ多

ク用ヅル。

ゆかわする「死者を湯モテアラウヲ云フ。湯濯ナリ。

ゆする「強テ人ノモノヲ請求シ、取トルヲ云フ。

ゆ「ウ」つかう「湯ニテ顔面手足ナドヲ洗フヲ――ト

云フ。』

△131表V

【白紙】

△131裏、134表 「ゆ」に予定V

よう「オ」する「コワ作りシ、或ハ衣紋ナドツク」ラ

ウヲ云フ。

よくぼり「有ルガ上ニ有ルヲ欲スルヲ、――ト云フ。

よごれる「けがれる、ト云フニ同シ。

よけうつ「道筋ナドニ接スル田地ナドニテ、作物ヲ人

馬ノつみ／トリ、食ヒナドスルヲ防ク為メニ、其

道筋ナル作ノ物ヲ刈リトルヲ、よけうつト云フ。

サテよけトハ、／防ノ意力。うつトハ、するト云

フ意ニヤ。尚考フ可シ。

よこ／「肥満ノ形ヲ云フ。

よう「オ」け「多くト云フニ同シ。又よけトモ云フ。

よやけ「夕方ニ、天ノ腹ノ赤クナルヲ――ト云フ。朝

方ニナ／ルヲ、あさやけト云フ。

よう「オ」せぬん「えせぬト同シ。而シテ、えせぬト云フハ卑語ノ如ク思ヒテ」

△134裏▽

ニヤ、婦人ナドハ特ニ、よをせんト用ナル傾向アリ。

よる「古語ノえるノ転セシモノカ。えせぬヲ、よせぬ／ト云フモ同シ。

よそう「飯ヲ「汁又飯ヲ」わんに入ル、ヲート云フ。

■

よつた「居ツたノ訛ナル可シ。見よつた、往きよつたナド。然ルニ／こけよつたノ如キハ、未来ニ云フナリ。サラハ、居ツたノ訛／トモ云ハルマジキカ。但シ、是レハ現在ニ云フコト多シ。」

△135表▽

【白紙】

△135裏△137裏▽

ら「な」と同シ。此語時限ノ概念ヲ有スル名詞、即チ昨日今／日ナドニ連ナルトキハ、などノ意ハ失ハレテ、単ニはノ意ニ用ナル。／昔「あした」は「あした」休日「曜」サ「曜」けーやうラ掌帳「月曜」／ナドノ如し。併シ、きに「やうラ寒かったが今日らぬくい、／ナド云フトキハ、ヤ、

などノ意ヲ含ムガ如シ。

ら「互爾波ノ、はノ意ノ如キ意味アル語ナリ。今夜／ら暗い。あしたら行う。」

△138表▽

【白紙】

△138裏△141表▽

りこう「オ」「発明ナルヲ云フ。利口ヨリ転シタルモノカ。」

△141裏▽

△141裏▽

【白紙】

△142表△144裏「り」に予定▽

【白紙】

△145表△148裏「る」に予定▽

れんがくがへし「クル／＼ト順ニ廻「カヘル」ルヲート云フ。源平盛衰記井ノ頼打論ノ所ニ、山門ノ衆徒ガ興福寺ヨリ被リシ恥ヲ／其末寺ノ清水寺ニ執ヒタルコトヲ「京童ガ」評シテ、山僧田楽法ノ師ニ似タリト云ヘリ。サラバ、れハでノ訛ナル可キカ、而シテ語ノ原モ此二本ケルガ如シ。れんがく「ミソヲ付ケテヤクヲート云フ。小魚ヲ申ニサシテ、ミソ／ヲ付ケテヤキタルモノヲ、れん

がくヤキ、其他豆腐ニモ／＼スルコトナリ。』
△148裏V

【白紙】

△149表△151裏 「れ」に予定V

ろくにねる＝仮寝ノ反対ニテ、正シク寝ルヲ云フ。
ろ＝ける＝老ヲ動詞化セルナリ。△この項、赤鉛筆V

△152表V

【白紙】

△152裏△155表V

わし。わたい。わい。＝皆我ト同シ。

わるそ＝悪者ト云フニ同シ。

わりこと＝悪事ナリ。わるいことノ略。

わゝける＝やはらかニナルヲ云フ。

わでとる＝餅搗ノトキ餅ヲまじる者ヲ云フ。

わかいし＝男女ニヨラズ■廿才前後ノ者ヲ云フ。

わく＝虫がわく。

わき＝他ト云フニ同シ。わきの用事。わきの／ものナ

ド。山分ニテハへらト云フ。

わき＝かたはらト云フニ同シ。家ノわきト云へ／ル

家ノカタワラナリ。

*わんこ＝お宛^{あて}の事、おけを入れる器物。』

△155裏V

【白紙】

△156表△158裏 「わ」に予定V

以上

【付記】 この資料の解説にあたつて、四国大学教授
白井宏氏のお力添えをいただきました。記して感謝し
ます。

せんば・みつあき（総合科学部教授）